

# 米労働市場の減速を示す内容となった雇用統計

シニア・ストラテジスト 石黒英之



## ポイント① 米労働市場は着実に減速しつつある

米労働省が8日に発表した2月の米雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比27.5万人増と市場予想（同20万人増）を上回りました。ただ、23年12月、24年1月分の同雇用者数の伸びが合計で16.7万人分下方修正されたほか、失業率も1月の3.7%から3.9%に上昇するなど（右上図）、今回の雇用統計は米労働市場が減速しつつあることを示す内容だったといえます。

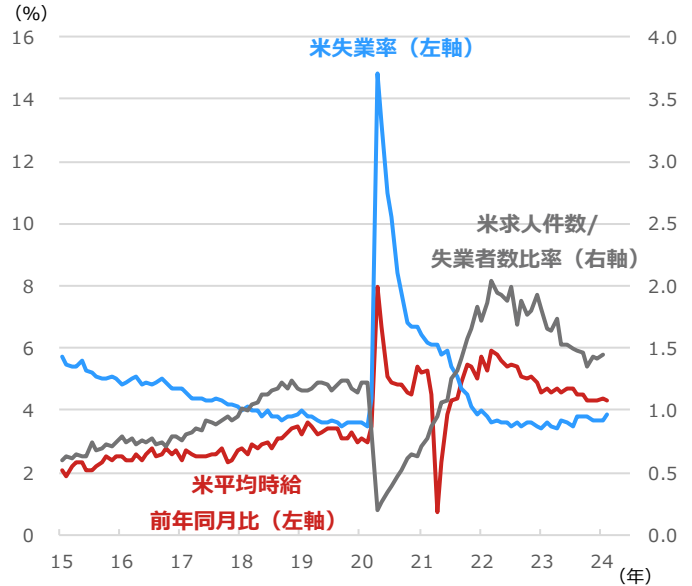
平均時給も前月比で0.1%増となり、1月の0.5%増から大きく鈍化しました。米賃金と連動性が高い1月の「米求人件数/失業者数比率」は1.45と、低下基調が一服していますが（同図）、2月の失業者数が大きく増加していることを考えると、同比率は今後一段と低下することが見込まれます。

## ポイント② FRBの年央利下げシナリオ揺るがず

「米求人件数/失業者数比率」は22年の平均値が1.87、23年が1.54となっており、賃金インフレ圧力は着実に緩和しつつあるようにみえます。米賃金動向の足元の実勢を表す平均時給の6か月変化率の年率換算値は、2月が3.9%の伸びにとどまるなど、米インフレ圧力が再び高まるリスクは抑制されつつあると考えられます（右下図）。

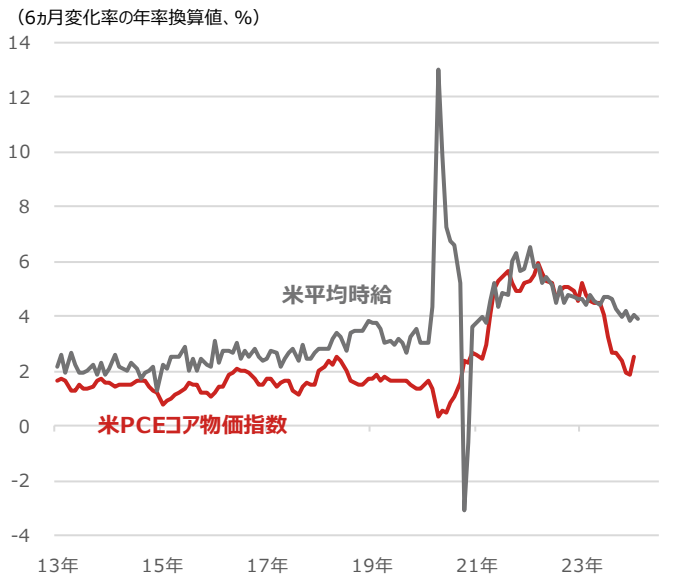
ニューヨーク連銀が公表しているビジネスリーダーサーベイでは、半年後の賃金について上昇圧力が緩和するとの結果（2月分）が示されていることから、米国のインフレ圧力は緩やかながらも和らいでいくと想定されます。現時点でFRB（米連邦準備制度理事会）が年央に最初の利下げに動くとの市場の見方は維持されており、投資家のリスク選好姿勢は当面続くと考えられます。

### 米平均時給・米失業率・米求人件数/失業者数比率



期間：（米求人件数/失業者数比率）2015年1月～2024年1月、月次  
（その他）2015年1月～2024年2月、月次  
・米求人件数/失業者数比率は失業者1人当たり何件の求人があるかを示す  
・米求人件数はJOLTS（米雇用動態調査）の数値を用いた  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

### 米PCE（個人消費支出）コア物価指数と米平均時給の6か月変化率の年率換算値



期間：（米PCEコア物価指数）2013年1月～2024年1月、月次  
（米平均時給）2013年1月～2024年2月、月次  
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。